

開会式あいさつ

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜
地域連携・産学連携部会長
岐阜経済大学副学長
竹内 治彦

みなさんこんにちは。

ご紹介いただきました岐阜経済大学の竹内です。本来ですと、岐阜大学で会場をお借りしていたので、岐阜大学の教学担当の副学長やコンソーシアムの幹事長の加藤先生にご挨拶をいただいていたのですが、ご欠席のため、地域連携・産学連携部会長の私の方が最初のご挨拶させていただきます。

まず、当コンソーシアムについて簡単にご紹介させていただきます。学生の皆さんにとっては、様々な大学の講義を単位互換で履修することができますし、インターネットでの講義もあります。私の授業もネット配信されて「社会学」を担当しています。

二つ目に、今日は高校の先生もいらっしゃいますが、学校の先生方には教員免許状更新講習もあり、ネットワーク大学コンソーシアム岐阜で担当させていただいています。三つ目は高大接続といいたまいませんか、高大連携を進めていく部会があります。

最後に、この地域連携・産学連携部会です。以前は、地域の行政の皆様とシンポジウムを実施していた時期もあったようですが、4年前に、私がこの部会の部会長に就任した際、この「学生による地域課題解決提案事業」を開催させていただきました。最初は、どうなることかと心配しながらはじめてきましたが、学生の皆さんが立派な発表をして、こうして4回目を迎えることができたことは喜ばしいことです。

平成24年度文科省がCOCを言い始め、岐阜県では岐阜大学さんも採択されました。Center of Communityとして、地域の拠点作りとして、地域の「地」と知識の「知」の拠点作りを岐阜大学が中心にされています。来年度からはCOC+（プラス）として新しい取り組みが始まります。地域課題プラス、地方創成会議では地方消滅を言い始め、人口が東京に集中していくことをどのように食い止めるか、が中心テーマになるようです。新聞で

も地方創生が取り上げられ、私は岐阜県の対策づくりに参加しているのですが、県の構想は22日に記者発表させることになっています。

このように、東京への一極集中を防ぎ、若者が、地方で学び、地方で育つにはどうすればよいのか考えることが、日本社会で大きな課題となっています。ですから、今日のテーマのように、学生の皆さんが地域の中で取り組み、活躍すること、さらには、そこに住み結婚し、そして子どもを産み、新たな世代をここで育むことが日本の社会にとって注目されていますよという状況にあります。そこまで大げさな話までいかなくとも、大学の学びとしては、自分の方から何か調べて自分の知として、何かができるようになっていくことが課題であるという流れが強くなってきており、その点でも本日の取り組みは重要です。

これまでの大学の知が世の中に対して何ができるのか。地方が消滅していくなかで、地方の大学の知がそれに対して何かできるかが問われています。多少の知識や研究で人口減少や東京への人口流出を食い止める簡単な解決はできません。簡単には解決できない大きな課題の小さな一端であっても、地方で学ぶものとして取り組み、自分たちから新たな知を作り出す、そういう意気込みで発表していただきたいと思います。

当部会は、これまで岐阜経済大学が担当してきましたが、来年からはこの事業も大学が持ちまわることになり、来年度の担当校はすでに県立看護大学さんに決まっています。来年度の会場も司会も決まっていますが、順次きまっていくと思います。ベースの形はできてきているので、各大学なりにアレンジして発展していただければと思います。クリスマスシーズンですから、最初の挨拶がサンタクロースでもいいでしょう。楽しく、しかし、真摯に地方の課題に取り組み、この会をより発展させていただければ幸いです。これから、長丁場になりますが、若い皆さんの熱気に溢れた運営にしていきます。どうぞよろしくをお願いします。